

1. 運営理念

運営方針

市民と共に育む、開かれた「まちのリビング」

人々が笑顔で集い、日常の中に新たなわくわくした発見と出会いが提供される「高山市らしい賑わいと文化の拠点」として、未来にわたって愛される場を創造し続けます。

運営体制

「交流」を事業ドメインとする2社が融合し、「地域」の魅力を発掘し磨き上げます！

交流促進事業・コミュニケーション事業を展開する(株)JTBコミュニケーションデザイン(以下「JCD」という)と、図書館事業や子育て事業に高い専門性を発揮するカルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)(以下「CCC」という)の2社による共同企業体「高山ライフ&カルチャーデザイン」にて取り組みます。各事業のプロが各機能においてハイレベルなサービスを提供するとともに、2社が融合することで各機能が相乗効果を発揮し、高山市の賑わい創出・交流の創造に貢献します。

文化・交流促進のプロ

- 文化芸術施設の運営実績
- 文化芸術振興
- 人財育成
- エリアプロモーション
- シティプロモーション
- コミュニケーションデザイン

子育て・交流促進のプロ

- 市民交流・子育て施設の運営実績
- 市民参加型イベント
- 空間デザイン力
- ライブラリー&カフェ起点的コミュニティ形成

賑わい創出・交流の創造

地域の魅力発掘／地域の魅力を磨き上げ

【運営管理体制図】

機能		①維持管理業務	②運営業務		
			貸館	事業(イベント等)	
文化芸術機能		維持管理会社 JCDより 業務委託	JCD	JCD	市民文化芸術鑑賞事業
交流機能				JCD	CCC
				図書館サービス	
子育て 支援機能	こどもの遊び場			CCC	子育て支援事業
	ファミリーサポート事業			ファミリーサポート事業	
滞在・休憩・情報・防災機能				JCD	CCC
民間サービス機能				JCD	CCC

2. デザインコンセプト

まちのリビングを作る

観光エリアが「ゲストルーム」ならば、本施設は住民がくつろぐ「リビング」です。笑顔や活気がまちの新たな魅力となるように、市民がくつろぎ、学び、集い、ふれあい、遊べる環境を整え、住民がくつろぐ「リビング」のような施設にしたいと考えます。

3. 施設全般の管理運営

市民ニーズの把握／情報発信／安全対策の構築

- 【市民ニーズの把握】 市民や利用者のニーズを把握し、サービスを継続的に改善・向上するために、ヒアリングシートの導入、各種アンケートの実施、利用者意見交換会に取り組みます。
- 【情報発信】 関係人口の増加を見据えた広報活動を行います。施設の様々な利用方法や使い方を提案し、紙媒体とデジタルツールを併用した多角的な広報活動を行っていきます。
- 【安全対策の構築】 施設の安全と利用者の快適さを追求し、危機管理マニュアルの作成や定期的な点検・訓練を実施します。委託先の設備管理会社には24時間365日稼働体制のとれる企業を選定します。

施設の有効活用

目標達成に向けたロードマップに取り組み、年間利用者数26.3万人を目指します！

稼働率・利用者数の増大を図るとともに、新たに加わる交流機能を起爆剤として管理期間10年の間に、右記目標を達成できる施設を目指してまいります。当施設の関係人口を増やし、関係深度を深め、施設のファンを増やしてまいります。

機能	施設	令和5年度	開業年 令和12年度	第1期 令和13～15年度	第2期 令和16～18年度	第3期 令和19～21年度
文化芸術機能	大ホール	30,228	42,000	38,000	40,000	42,000
	多目的ホール	18,694	20,000	19,000	20,000	21,000
交流機能	マルチルーム等	150,789	157,000	155,000	157,000	160,000
子育て支援機能	遊び場・ファミサポ	23,234	25,000	24,000	25,000	26,000
民間サービス機能	カフェ等	—	13,000	12,000	13,000	14,000
利用者数 合計		222,945	257,000	248,000	255,000	263,000

4. 施設の各機能

文化芸術機能の運営

「利便性と機能性の追求」、「様々な使い方の提案」、「価値を高める機能の相乗効果」に取り組み、高山市民の皆様のみならず、周辺地域からも注目される多種多様な文化芸術の発信地点として市民の誇りとなる施設を目指します。

文化芸術機能の運営体制

JCDの本社プロデュース機能がシンクタンクとなり、事業を支援し、地域に根差した質の高い文化事業を作り上げます。また管理施設の事業コンテンツを集約した情報データベースである事業管理システム、独自のアンケートシステムを活用し、事業の質を底上げします。

交流機能の運営

地域住民が「好きなこと」へ「挑戦する機会」「継続できる機会」を提供する場所を目指します。諸室は自然災害などの非常時には避難所として活用することも想定しています。

交流機能の運営体制

交流機能を促進するために市民同士または市民と来街者との交流を結びつけるコミュニティマネージャーを配置し、市民活動をサポートします。

市民交流スペース

市民スペースは、オープンで空間の重ね使いを前提に、多目的に活用します。市民活動が仕切りのないオープンなスペースで行われることで活動を見える化し、市民の興味関心を持ってもらうきっかけを作ることで市民参画を促進します。

子育て支援機能の運営

こどもの上質なあそび環境を新たなまちの観光の魅力に変える
駅西エリアが市民にとって自分たちの場所であると実感でき、こどもを連れて行きやすい場所になることを目指していきます。

- 高山らしさから学び、高山らしさを育てるあそび環境をつくります。
(例:地産材を使用したスライダーの設置など)
- あそびが生まれるきっかけづくりを行います。
(例:プレイリーダーの配置)
- こどもはもちろんの事、親にとっても居心地のいい空間を整えます。
(例:ガラス張りにする区画など)
- こどもの学びを支援するコミュニティをつくります。
(例:NPO、市民活動団体、ボランティアとの連携など)

民間サービス機能の運営

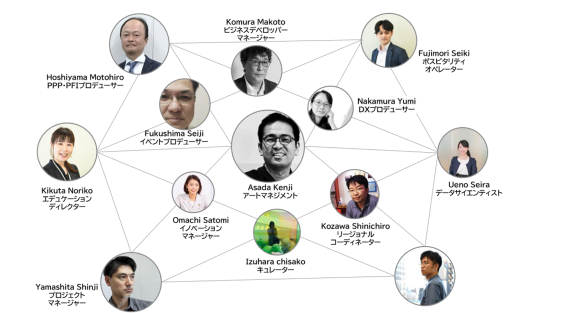
コーヒーを飲みながら、イベントや読書を楽しめる
市民や来訪者が集うカフェ

ライブラリー&カフェ

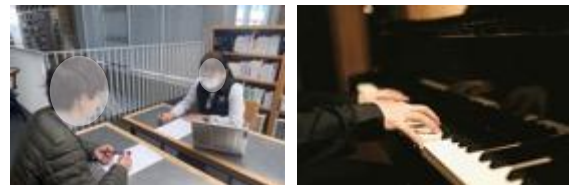
利用者がゆっくり時間を過ごせる居心地のよいライブラリー&カフェを展開します。交流機能エリアとカフェはシームレスな配置を行い、イベントなども行うことで、コミュニケーションが生まれるきっかけにします。

POP-UPストア

地域のお店の商品を販売することのできるPOP-UPストアを展開します。デザイン性の高い空間で販売することにより、地域の魅力アップにつなげます。



専門プロデュース軍団がバックアップ



※写真はすべてイメージです。